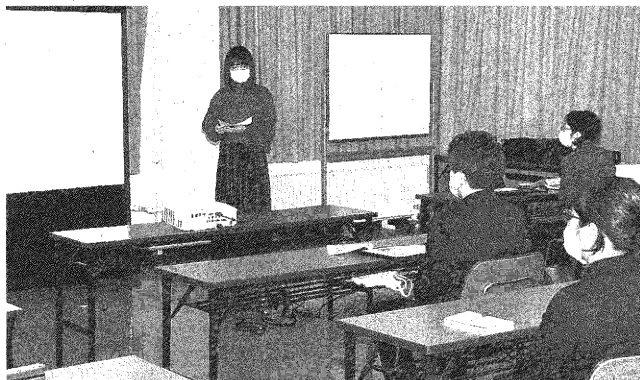


県内での人生設計描く



各自治体の取り組みを紹介する学生

高崎経済大地域政策学部で地方自治を学ぶゼミの学生11人が18日、前橋市の県庁昭和庁舎で自ら考えたライフデザインを発表した。県生活ことも部職員に対し、出産子育てをテーマに老後までを見据えた県内での人生設計を示した。

県内市町村に住む架空の若者をモデルに、前橋、高崎、太田、館林、安中、桐生、渋川、みなかみ、吉岡、中之条、南牧の11市町村での生活を想定した。出産や育児などライフイベントごとに抱える不安や課題について、行政が行っている支援策を紹介。給食費の助成や住宅リフォームの補助金などの既存の取り組みにも触れた。

学生は情報収集のため、あらかじめ各自治体のホームページや新聞記事を参照したり、市町村へ問い合わせたりした。同ゼミの岩崎忠教授は「実際に県庁で公務員として働く職員から直接アドバイスをもらえる有意義な活動となった」と話していた。